

活動紹介!

ケルティックハープ教室

ケルト文化圏（アイルランド、スコットランド、マン島、ウェールズ、フルターニュ、ガルシア地方）に伝わる素朴で美しい楽曲をケルティックハープと呼ばれる小型のハープで弾いています。柔らかく乾いた音は、どことなく哀愁のこもった曲にはぴったりの楽器です。

小学生から大人までが対象で、基礎から学んで、素敵な音色を奏できます。毎月2回土曜日午後個人レッスンをしています。体験レッスンも常時受付中です。



12月の催しから

- 1(日)
 - ・モハラナフアラニ・フラダンス
- 4(水)
 - ・映画会「沖縄戦の囀」
- 8(日)
 - ・第11回 Christmas Concert
 - ・クリスマスライアーコンサート
- 14(土)
 - ・なかしまかおり
リトミック・ピアノ発表会
 - ・かわのピアノ教室発表会
- 15(日)
 - ・深谷ピアノ教室発表会
 - ・くるめザコメディ
- 20(金)
 - ・オカリナ発表会
- 21(土)
 - ・小籠ピアノ教室発表会
- 22(日)
 - ・0歳からの
親子で楽しむコンサート
- 27(金)
 - ・くるめザコメディ



★成美教育文化会館は、12月28日(土)から1月6日(月)まで、年末年始休館日となります。

これらはあくまでも予定ですので変更もございます。一般の方の参加の可否等、詳細は主催者までお尋ねください。

会館事務室から



今月の話題 — 地方生活

Uターン、Jターン、I(アイ)ターンという言い方が、主に都会と地方との間の移住の仕方を表すものとしてずいぶん前から使われてきました。Uは、一度生まれた故郷を離れてしばらくして再びそこへ戻ること。Jは、地元に戻るのではなく、どこか別の地方に移ること。Iは、元々都会の出身者が地方に移住すること。大雑把に言えばこんなことです。

こうしたことがよく言われるようになってきた中で、自発的意思に頼るのではなく、積極的に移住してもらおうという働きかけが、地方の自治体で盛んに行われるようになってきました。日本のほとんどの地方は、人口減少の一途をたどっています。人口の確保は、自治体が存立して行く上で最重要課題です。それぞれあの手この手で、移住の魅力を発信して、移住者を増やそうとしています。移住にあたっての支援金、住居の提供・補助、就職や起業の支援、子育て、教育、医療にかかる費用の補助などです。国も国家的課題として地方創生を掲げ、こうした施策を強力に後押しをしてきました。

しかし、移住のデメリットもあり、なかなか上手く進まないのが現状です。

都会と地方の様々な違いは、都市が出現すると同時に発生した、打消し難い事実です。イソップ物語に「都会のねずみと田舎のねずみ」という話があります。その土地その土地に良さがあり、それを魅力と感じる感性も人それぞれです。少子高齢化社会での地方の活性化は難題です。総人口の増加が解決の一つですが、これも至難。挑戦は続きます。

